

アオモリムシロ *Reticunassa hypolia* (Pilsbry)

【選定理由】

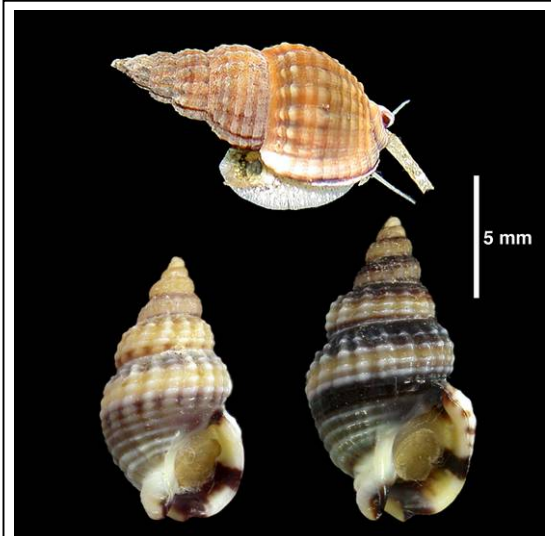
今までにアオモリムシロ *Reticunassa hypolia* (Pilsbry)、クロスジムシロ *Reticunassa fratercula* (Dunker)、ウネムシロ *Reticunassa hiradoensis* (Pilsbry) は、全て同一種の亜種関係に位置付けられるなど分類が混乱していた (肥後・後藤, 1993; Higo et al., 2001; 土屋, 2000)。しかし、花木・他 (2014) による各種のミトコンドリア DNA による解析の結果では、3種は独立種で、また県下にはアオモリムシロ (タイプ産地: 青森県陸奥湾) が分布すると判断した (早瀬・他, 2019)。

県下では日間賀島、知多半島南端部 (早瀬・他, 2019) で生息が確認されている。日間賀島では潮間帯岩礁の砂溜まりで小型海藻の基部や岩礁の周囲などに 10 個体に満たない少数の生貝が確認された (早瀬・他, 2019) に過ぎないが、知多半島南端部の 2ヶ所では健全な個体群が確認された (木村, 未発表資料)。

本種は県下では近年 3ヶ所の生息地が確認されているが、いずれも潮間帯中部付近に生息し、垂直分布の幅が非常に狭い。これらの生息状況より、絶滅の危険性が高い種であると評価された。

【形態】

殻長 13 mm 前後、雌個体は雄個体よりやや大きい。殻質は厚く、殻表にはうね状に顆粒突起が並んでいる。愛知県産個体の殻の色彩は黄褐色から灰褐色で黒色、橙色、黄色が入り交じる個体が多く、タイプ産地の個体と比べると変異が大きく、淡色で明るい色彩の個体が多い。ウネムシロにもやや近似するが、ウネムシロは大型で、螺塔がやや高く、殻の色彩が黄・橙・黒の単色もしくは灰褐色下地に白い色帯が入る 4タイプが出現し (木村・木村, 2013)、色彩での区別も容易である。またウネムシロの雌と雄個体に殻の大きさに差はない。近似種で未記載種のアツミムシロ *Reticunassa* sp. とも近似するが、アツミムシロは殻が細く、殻表の彫刻が弱く、色彩変異も少ない。また、雌個体は雄個体より著しく大型である。



南知多町日間賀島, 2018年6月16日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

本種としての県内での採集記録は、早瀬・他 (2019) が初めてであるが、それ以前の 1995年8月にも日間賀島で生貝 2個体が採集されていた (早瀬・他, 2019)。その後、知多半島南部の 2ヶ所で健全な個体群が確認された。

【世界および国内の分布】

本種の分布域は従来、三陸以北、北海道の潮間帯から潮下帯 (例えば, 土屋, 2017) と言うように、北方系種と考えられ、北海道以南には近似種のクロスジムシロが分布するとされる (例えば, 土屋, 2017) ことが多かった。しかし、花木・他 (2014) では本種の分布域は南側に広く、日本海側は山口県、太平洋側は三重県 (伊勢湾湾口部) まで分布する事が明らかとなった。伊勢湾湾口部沿岸 (三重県側) には本種の健全な個体群の生息地が比較的多く現存している。クロスジムシロは、済州島 (韓国) に分布している (木村, 未発表資料)。また、本種と近似した標本が新原色韓国貝類図鑑 (関, 2001) に図示されているが、画像だけの判断は難しく、本種が韓国に分布するかどうかは検討を要する。また県下での本種の垂直分布は潮間帯の中潮帯付近に限定されており、潮下帯には生息していない。

【生息地の環境／生態的特性】

本種は外洋に面した潮通しの良い内湾の潮間帯 (中潮線付近) の岩礁周辺の砂溜まりで小型海藻の基部や岩礁の周囲などに生息する。また本種の生息環境には陸域からの淡水のしみだしがある場合が多い。本種の生息できる場所は、貝類の多様性が高い。腐肉食性で、死肉などに集まることもある。

【現在の生息状況／減少の要因】

県下では生息海域は狭く、個体数は多くない。生息環境自体が消失したことが一番大きな要因と考えられる。

【保全上の留意点】

本種の生息環境である上述したような生息環境を保全することが重要であろう。

【特記事項】

本種の種名で県下よりの生息記録は早瀬・他 (2019) が初めてで、それ以前の報告ではクロスジムシロとして記録されているが、本種の誤りである。

【引用文献】

- 関德基, 2001. 新原色韓国貝類図鑑. 332pp. 関貝類博物館, 韓国.
花木勇太・香取祥人・林 誠司・木村昭一, 2014. ミトコンドリア DNA によるクロスジムシロ種群の予察的系統解析. *Venus* 72 (1-4): 148.
早瀬善正・木村昭一・西 浩孝・守谷茂樹・岩田明久, 2019. 日間賀島 (三河湾) の潮間帯貝類相. *かきつばた*, (44): 1-15.
木村昭一・木村妙子, 2013. オリイレヨウバイ科. in: 鈴木孝男・木村昭一・木村妙子・森 敬介・多留聖典 (著) 干潟ベントスフィールド図鑑. pp. 33, 145-145. 日本国際湿地保全連合, 東京.
土屋光太郎, 2000. クロスジムシロ. in: 奥谷喬司 (編著) 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. pp. 450-451. 東海大学出版部, 平塚.

【関連文献】

- 日本ベントス学会 (編), 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック. 285pp. 東海大学出版部, 秦野.

(木村昭一)